地域と子どもが交わる・広がる

地域子ども教室推進事業

少しずつ・少しずつ開かれてきた学校

地域の輪がつながり、広がってきただけでなく、この事業が小学校を舞台に始まったことも大きな特長です。

完全学校週5日制の導入後、全国の小・中学校が地域に開放される動きが出てきていました。しかし、平成11年と13年に小学校で子どもが被害者となる事件が起きたことで、いかに不審者の侵入から子ども達の命を守るかが大きな課題となり、学校施設の安全対策が急務となりました。

それでも、学校は地域の拠点となる施設であり、さらには学校教育と社会教育、地域活動なども含む生涯学習をつなぐ重要な役割を持っています。そのため、市民からは「親子二代で通った学校に何かの形でかかわりたい」「私達地域の力を子どもを育てることに生かせないだろうか」という声が根強くあったのです。

教室の安全対策

文部科学省では、「学校を生かし、校庭や教室を開放して、大人も子どもも自由に参加できて、遊び、学び、ふれあえる場をみんなで作りませんか」と呼びかけ、同時に「十分な安全対策を」と指導しています。活動中は、全体を見守る指導員のほかに、毎回2名ずつ、安全面に特に注意を払う安全管理指導員を配置する決まりとなっていて、安全管理マニュアルも作成しています。これに加え狭山市独自に、警察署、消防署、付近の病院にも土曜日の午前中には子ども達が参加する事業があることを周知して、注意を払っていただいています。

もちろん、かかわる大人も、子ども達の安全面には特に目を配りますし、教室に参加させることの責任と行き帰りの安全は保護者にゆだねられています。このように、狭山市の「地域子ども教室」は学校を拠点として、さまざまな人の目と手を借りて運営されています。

大人達の迷い…そして見えてきた「姿」

今、「子ども達のために何かできることはないか」と集まったメンバーは、葛藤（かっとう）や迷いを繰り返しながら、「たくさんある子どもの居場所の一つ」を作っています。そして活動しながら、「イベント的な、親も子もみんなが楽しめる行事をしたい」「子ども達に本格的な体験をさせてあげたい」「子ども達がホッとできるような場を提供したい」というように、少しずつ、方向性がまとまってきました。

「子ども達のために、地域の力を合わせて、できることから一歩ずつ、無理をしないで進めていきましょう」これが運営にかかわる人たちの共通した意識です。この共通意識を持つまでに、運営会議での活発な意見交換など多くの対話が必要でした。そして、行きつ戻りつしているうちに、

かかわる人が最初に感じた不安・疑問

■子ども達がけがをしたら、だれが責任を持つのか…預かる立場の者としてすごく不安

【教育委員会の考え】万が一けがをしてしまったら、教育委員会で対応します。ただし、けがをしないように目配りをしっかりしてください。また、活動メニューによっては小刀を使ったり水辺で活動したりと、気を付けていても多少のけがが心配される場合もあります。しかし、保護者やかかわる大人も、それを「良い経験」と受け取れるような教室にしていきましょう。

■今の子ども達は忙しいから参加する子がいないのではないか

【運営メンバーが出した結論】確かに子どもの参加できる事業や遊びに行ける場所などはたくさんあるが、この教室が魅力的なものだったら、きっと子ども達は遊びに来てくれるだろう。もちろん、ほかの事業や取り組みとの間で「子どもの取り合い」にならないよう、いろいろな活動の情報も収集しながら、自分達なりに考えられる「子どもの居場所のあり方」を探して、少しずつ、無理をしないように実現していきたい。

■平成16年度から3年間、出ることになっている文部科学省からの補助がなくなったら、事業はおしまいなのか

【教育委員会の考え】「地域で子どもを育てる」という取り組みが根づき、補助がなくなった後も継続することを期待しています。地域の皆さんの自主的な活動が定着し、円滑に進むよう、教育委員会としても協力していきたいと考えています。

【運営メンバーが出した結論】子ども達が自分の生まれ育った場所を「ふるさと」と思えるような体験をたくさんさせてあげたいし、それを実現するのは地域に住む大人の責務だと思う。補助の有無によって活動が成立するのではなく、できるだけ自分達で、地域でこの取り組みを続けていけるような方法を模索していきたい。

参加させてみてどうでした？保護者の声

●子どもが目的意識を持って取り組む姿は見ていて嬉しいし、応援したくなります●大人にも初めての体験が多いので楽しいです●家族以外の大人に声をかけてもらえるのは子どもにとってよいことだと思います●ここにいる大人達は子どもに話しかけたり、説明する手間を惜しみません。見ていて勉強になります●もっと多くの人にこの教室を知ってほしいと思います

かかわる大人達・想いの数々…

●地域の人に見守られて育っていく子ども達が理想です。昔からの忘れてはいけないことを子ども達に伝えていきたいと思います●じっとしているのが苦手な子にごっついカッターを持たせ、彼の息遣いに合わせて仕事を教えている指導員さんを見て感動しました●「おばさん今度も来る？またおはじきやろうよ」と声をかけてくれた男の子４人組の顔が忘れられません。活動プログラムに追われることなく、もっと気楽にあの子ども達と遊べたらいいな…という気持ちもあります●土曜日だけでなく放課後に実施すること、また、小学生だけでなく中学生・高校生の居場所づくりも必要だと思います●昔は周りの自然や近隣の空き地などで遊び、冒険し、けんかをして友達ができ、成長しました。今の子ども達にはそのような場が少なくなってきていると思います。その足りない部分を補うような、自由にのびのび活動できる場づくりを心がけたいです●子ども達はみんな違う個性を持っています。才能の優劣はありません。個性を引き出せる内容の企画を立て、子ども達にとっての「チャンスの場」を作ってあげたいです●ある子は「ディズニーランドよりおもしろい！」と言っていました●いろいろな校区の地理的背景によっては、企画内容にも限度があります。時々は他校区との共催や、活動の場を変えることも必要だと思います●ゲーム機を持って来てずっとやっていた子達も、みんなが活動している傍から離れずにいたというのは、教室の持つ空気が彼らを遠ざけなかった証ではないでしょうか●肩に力を入れず、細く長く続けていくべく、「大人も子どもも楽しい場所」になったらよいと思います

参加してみてどうだった？子ども達の感想

●知っていることも知らないことも体験できるメニューが楽しい●土曜日が待ち遠しい●新しい友達ができて嬉しい●全部おもしろい●流しそうめんは、いつも食べているそうめんより100倍おいしかった。またやりたいなぁ●里芋のおやきなんて初めて。すごくおいしかった●みんなも来ればいいのに●本を読む方が好きだけど来たくなる●来年もこの教室をやってほしいな

自分で選んだ好きな遊びをして半日過ごす…そんな楽しみ方もあります

個々の、団体同士の、個人と団体の「つながり」ができていったのです。

この事業では、こういった地域のネットワークをしっかりと結ぶことも目標の一つとなっています。

子どもの居場所は大人の居場所

少しずつ進み始めた「地域子ども教室」は、大人が自分の経験や知恵を活かせる場でもあります。つまり、この教室は、大人にとっての「生きがいづくりの場」ともなっているのです。

そして、「子どもがホッとできる場所は、実は大人にとっても居心地のよい場所である」ということに、かかわる人々は気づき始めました。

これからも芽を出したばかりのこの事業をしっかりと根づかせるために、肩ひじを張らず、大人も居心地のよさを感じながら子ども達とかかわっていきます。

できることからかかわってみませんか

現在、2校で行っているこの事業は、来年度以降、実施校を拡大する予定です。「私にも何かできるかな？」「子どもに関することを何かしたいけれど、どうしたらよいか分からない」そんな風に思っている方は、ぜひ地域子ども教室に足を運んでみてください。ここは、子ども達の体験の場であり、地域の大人達の活躍の場でもあるのです。この教室に関して思ったことや感じたことなど、皆さんの声をお寄せください。

問合せ生涯学習課へ　内線5672